

『露に色は無い』

朝露は葉に有っては葉の色に、花に有っては花の色に、地に降れば地の色に、川となって海へと続き、果ては蒸発して雲となります。

仏さまの教えも、受け取る側の知識や教養によって、上品にも下品にもなってしまう。

お大師さまは、ご自身の求道の道筋を決めるに当たり、あらゆる教えを段階的に評価され、真言密教を第一とされました。

しかし、その後、露の喩えの様に、教えに優劣が有るのでは無く受け取る側の力量によって、その表現に差が生じる事をいろいろな場面で伝えておられます。

お釈迦さまも、何人もの師に教えを請い、納得できずに修行方法を変えていきますが、やはり後になって、師の問題ではなく、自身に受け取る力量の備わるまでに、時間が必要だった事に気がつかれました。

更には、仏さまのおこころは、衆生の中にこそ存在し、決して高邁な思想を振りかざすことでは無い事も明らかにされています。

真言密教の教えは、崇高な理念に違いは有りませんが、努々他の教えと比べて、順位を付けたり、競ったりしたところで、何の益もない事を承知しておきましょう。

平成二十四年九月

川上修詮記